

Weekly Bulletin

2017-2018



RI会長
イアン H.S. ライズナー



ロータリー:
変化をもたらす

静岡東ロータリークラブ

会長 / 高田雅司 幹事 / 川崎依子

事務局 / 静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場 / ホテルアソシア静岡 例会日 / 毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
高田雅司

第 2826 回例会

平成 29 年 9 月 21 日 天候 晴

- 《司 会》 川崎 依子君
- 《合 唱》 「それでこそロータリー」
- 《BGM》 みなみらんぼう 全曲集
- 《ゲスト》 株式会社プラス・プレスト
代表取締役 増田 慎一 様
- 《ビジター》 なし

《本日のお祝い》

お誕生日

- 9月22日 武田 弘樹 君
- 9月23日 相原 雄治 君
- 9月25日 古橋 剛俊 君
- 9月26日 杉山 輝光 君
- 9月27日 花房 善之 君

結婚記念日

該当者なし

《会長挨拶要旨》



高田 雅司 会長

皆さん、こんにちは。
本日は(株)プラス・プレストの代表取締役増田慎一様をお迎えして「子ども食堂を通じて伝えたいこと」と題して卓話を頂きます。増田様

よろしくお祈りいたします。

さて今日は建築＝設計についてお話をさせて頂きたいと思っております。第二回目の建築セミナーです。設計者としてどんな役割を担い、日々どんなことを考えながら設計という作業をしているのかという事をお話させて頂きま

す。まず初めに、生意気な事を申し上げますが『建物は所有者だけのものではない』という事です。建築とは第一義的には、生命や財産を守るというシェルターとしての役割があり、日常生活や、生産活動、商業活動

など、ほとんどすべてがシェルターとしての建物の中で実践されています。こういった人間の様々な活動を実現させる建物ですが、その所有は個人であったり企業であったり、団体であったり、はたまた公共であったりと様々です。

しかし、建築は非常に社会的な存在でもあります。なぜなら、それら一つ一つが街並みや景観、風景といったものの構成に大きな影響を与えますし、建物によっては多く所有者以外の多くの利用者がある社会的インフラとして存在をするからです。

環境に対しても大きな影響を与える構成要素でもあります。

設計者としてクライアントあるいは、スポンサーとしての個人や企業、団体等の様々な要求、これらには建築の規模や備えなければならない機能、事業全体の予算、事業期間などの具体的な要求と、社会的な要求としての関係法令への適合、環境への適合や配慮、あるいはデザインについての的確な計画などがあり、そういった要求に100パーセント堪えることは勿論、一方、建築の持つ特性とでもいえるべき、社会性＝街並みや景観への配慮、融合をも十分に念頭に、設計という行為を進めることも常に意識する必要があります。

設計を経て工事に入りますと、監理という役割を担うこととなります。これは設計図に示された内容が的確に実行されているかを図面や現場にて確認検証しつつ、クライアントの要求に沿っているかも確認をとりながら形作り完成にいたりします。

建築が完成してクライアントに引き渡しをすると一旦は設計者としての我々の役割は終える訳ですがその後も的確な維持管理を『育ての親』としての所有者あるいは使用者に委ねつつも『生みの親』としての見守りと助言を、その建物が使命を終え、なくなるまで見届けることとなります。

以上が設計者の立場、役割であります。会長という立場に立たせていただき一度はお話をさせて頂きたいと考えていたことであります。会長挨拶に替えさせて頂きます。ありがとうございました。

《来賓卓話》

「子ども食堂を通じて伝えたいこと」

(株)プラス・プレスト 代表取締役 増田 慎一 氏



私は新清水駅から徒歩5分ほどのビルの2FでBonMasudaというフレンチレストランのオーナーシェフを務めています。現在40歳で6歳の娘の父でもあります。出身は神奈川県箱根

町で、2015年1月からこれまでの経験を生かして飲食店向けのセミナー事業をスタートし2016年9月1日には「株式会社プラス・プレスト」設立しました。本日は「子ども食堂を通じて伝えたいこと」というテーマでお話いたします。

「子ども食堂」とは2016年5月から月1回開催している取り組みで、静岡市在住の小学生を対象に農作物の生産者の方などをゲストスピーカーとしてお招きし、食材への想いなどを子どもたちに語っていただきながら、みんなで一緒にフランス料理を食べる、というものです。

子ども食堂を始めたきっかけはあるTV番組で、そのとき「日本の子どもたちの6人に1人が貧困状態」という事実と「子ども食堂」の存在を知りました。自分の知らない現実を知り衝撃を受けるとともに、料理人である自分にも何かできることはないかと考え、自分でも「子ども食堂」を始めることにしました。

当初のコンセプトは「シングルマザー(ファザー)の子どもたちに「無料でフランス料理を提供する会」というもので、「貧困の子どもたちに特に来てもらいたい」と考えていました。

初回は知り合いのツテで多くの参加者が集まりましたが、2回目は子どもが集まりませんでした。その理由は「貧困の子どもたち」というワードに抵抗感があること、参加者に「貧困の子ども」とのレッテルを貼ってしまうこと、深刻な状況にある子どもたちは参加すること自体が厳しい、という現実などがありますが、当初はそのことに気が付きませんでした。周囲からそういったご意見を頂いたことで考え直し、コンセプトを「食卓をみんなで囲む楽しさを伝えたい」「“食”を通じてコミュニケーション」「幅広く食育に興味のある小学生を対象」とすることにしました。

一般的な「子ども食堂」の課題は、ボランティア精神が独り歩きであり、方向性が固まっていないこと「三方よし」になっていないことなどが挙げられます。

私は「子ども食堂」によって、食を通して社会貢献する想いを実現する喜びや、ボランティアスタッフの助力や寄付金などの支援といった、周囲の方々のご協力を頂くことができました。

参加してくれる子どもたちにも変化がみられ、最初は自己紹介も躊躇していた子が率先して手を挙げるようになっていたり、自分の家のようにくつろぐようになっていたり、お掃除を手伝ってくれるようになりました。私の今後の願いは、子ども食堂の輪が静岡に広がって

ほしい、特別な存在にならないこと、信じていい大人の存在を子どもに伝えること、です。

本日はありがとうございました。

《スマイル報告》

川崎 依子 君 7月24日に女子会でJR清水駅から徒歩8分くらいのところにあるフレンチレストランBon Masudaさんでスペシャルディナーコースとワインを堪能してきました。見た目も味も最高でした！本日はそのオーナーシェフである増田慎一様にお越しいただきお話していただくことができました。感謝してスマイルします。

肥田 隆輔 君 このたびは静岡新聞社主催の「静岡新聞広告賞2017」において、弊社の創業150周年広告が思いもかけない審査員特別賞を受賞することができました。細川さんと村松さんに感謝とお礼を込めて。

山下 勝央 君 先日の新潟東ロータリークラブとの懇親ゴルフコンペにて、ハンディに恵まれて優勝させていただきました。一緒に回って頂きました長島さん、ありがとうございました。

中嶋 達郎 君 9月16日の新潟東ロータリーとのゴルフコンペ、幹事の由利さん、御苦労様でした。

相原 雄治 君 誕生日のお祝いありがとうございました。体力など年齢を感じる時が増えてきましたが、より一層自分に負荷を掛けつつ、頑張っていきたいと思えます。

古橋 剛俊 君 誕生日のお祝いありがとうございました。入会して34年、73歳になりました。

《出席報告》

	会員数	出席	欠席	MU	完全欠席	確定出席率
9/21	55(53)	37	16	-	-	-
9/15	55(52)	36	16	-	-	-
9/7	55(53)	39	14	7	7	86.79%
8/31	55(54)	40	14	3	11	79.62%

(会報作成 島 武志)